
緋弾のARIA-黒い転生者

TR

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋弾のアリア - 黒い転生者

【Nコード】

N5403BA

【作者名】

TR

【あらすじ】

まあそんなこんなではじまるよっ

プロローグ（前書き）

てっくれ〜!!・・・すみません、ちょっと言ってみただけです。というわけで緋弾のアリアの二次創作をノリで作ってみました。作者はblack catとか好きな厨房なんで武器とかでちよくちよく入れていこうかと思ってます。初投稿なんでよくわからないところもあるかも知れませんがまあ、気軽にこいつの駄文見て笑ってやろう的なノリで見ただけだと嬉しいです。それではノシ

ブローグ

「うぼっ」

目が覚めて第一声がこれだった。

「……はあ、何言ってんだオレ」

喉が酷く渴く、汗ばんだシャツを脱ぎ捨て、冷蔵庫の扉を開ける。

ペシがぼつんと一っ

「マジで何もねエ……」

仕方ないので未開封のペシを勢いよくあける。

プシュッと心地良い音を起てたペシを口元へ運ぶ。

ゴクツゴクツ、喉に炭酸特有の刺激が刺さる。

「あゝ、やっぱり朝から炭酸は無いわ」

寝室を出てリビングに向かおうとすると、『you've
got a mail!』、けたたましいメールの着信音が鳴り響

く。

が、面倒なのでそのままリビングへ。

背凭れがやや低めの椅子に腰を下ろすと、また眠気が襲ってきた。

え？オレは誰だつて？こいつは失敬名乗ってなかったな、オレは「さいかいと雑賀海斗」、ごく普通の高校生で、趣味はギターとかエアガン集めとか・・・まあ色々あるな。特技は銃を見たら種類、系統、口径、発射機構など、まあその銃のさまざまなことが判るというもの、べつにオレヤングガンとかじゃねえし、この特技さして意味無いけど・・・とにかくそんな人間なんだ。

と、自己紹介を終えたところでまた眠気が襲ってきた。

「だああー、クッソ眠くて仕方ねえ・・・散歩にでも行くか」

適当に身支度をするとうちにむかって歩き出した。

二十分後

街に到着、まあ街と言うかかなりの大都市だが、ここら辺はよく知っている、小さい頃からよく来た場所だ、まあそれは置いて、どこへ行くのか？

1 ゲーセン

2 楽器屋

3 ライブハウス

4 喫茶店

とりあえず3と4はない、この時間はまだ開いていない。ちなみに今日は日曜日で現在時刻は10時ジャスト、なぜか楽器店は開いている。が、生憎ギターは持ってきていないということでゲーセン、君に決めた!!

まずは千円をダイナミックに両替、硬貨が十枚出てきた、さあいくぜと言わんばかりに某湾岸を走るレーシングゲームに連コイン、開店早々だというのにほかの三席は埋っていた。

適当にタイムアタックを選択ちなみに某首都の高速のランキングの大半はオレの34R一色、青いフォルムに黒のカーボンボンネットが映える、しばらく走っていると後ろにはギャラリーができていた。

「こりゃいいとこ見せねーとな」

へらへらと笑いながらギアを6速に入れる、流石、オレのGT-Rは世界一イ・・・スマソ、とか思ってる内に時速341キロに到達ま、楽勝だな・・・。

～一時間後～

連コインした分のクレジットを使い果たし、乱入にも滞りなく勝利したオレは帰る前に銀行に行って金を引き出そうとしていた、ATMを弄っているその時、

パン！！

乾いた銃声が耳を貫く。

プロローグ2（前書き）

長くなっちゃったプロローグ

ブローグ2

乾いた銃声が耳を貫く。

「てめえらおとなしくしゃがれえ!!」

比較的低い声を漏らすそれは、十中八九強盗に間違いない、いやむしろ強盗より注目すべきはその強盗の手元、そう、その手には拳銃が握られていた。

「トカレフTT-33通称トカレフ、ソビエト連邦陸軍が1933年に制式採用した軍用自動拳銃で、正式名称トウルスキー・トカレヴァ1930/33、結構前からロシアから密輸されている拳銃だな」

ボソツと呟いてみるこれは癖でもある。

安価で威力もそこそこあるが、比較的弱い部類の銃である事には変わらない、オレは確証も無く勝てると思った、否「思ってしまった」

オレの近くで子供が泣き出した、するとその強盗は威嚇射撃のつもりだったのだろう、泣き叫ぶ子どもにもわかって、発砲した。

トカレフから吐き出された鉛の塊は、子供の右

腕を貫通した。

声にならない声が耳を劈く、その瞬間
オレの中で何かが切れた。

オレは咄嗟に強盗に向かって駆け出した、勝てる、こいつになら勝てる、構え方もまるで素人だ、サバゲーを積み重ねてきたオレが負けるわけが無い、自分に言い聞かせるように。

「っ！！テメエこの銃が見えねえのか！？」

「そう言いながら銃口をオレに向けてない時点でお前の負けさ」

オレはそう言いながらヤツの腕を掴みトカレフの安全装置を起動した。

安全装置の働いたトカレフなど恐れるに足りない、オレは足を振り上げてトカレフを蹴ろうとした、その瞬間、男の右腕には二十センチ程の刃渡りのナイフがあった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5403ba/>

緋弾のアリア-黒い転生者

2012年1月14日23時02分発行